第１３回　鳥海ダム環境影響評価技術検討委員会　技術的助言

日時：令和４年２月 18 日（金）１４：００～１６：００
場所：秋田 JA ビル　９階　コンベンションホール

1.　令和３年度　鳥海ダム環境モニタリング調査結果に関する技術的助言

①水質

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	金委員	環境基準の改正に伴い、令和４年4 月から評価項目が大腸菌群数から大腸菌数へ変更となる。 鳥海ダムでは過年度の大腸菌群数との相関を確認するため、令和4 年度以降に両項目を測定することとしているが、環境省で公開された資料を見ると両項目の相関はほとんどないとされている。 このため、両項目をモニタリングする必要はないと考えられる。	過去の大腸菌群数と、今後測定する大腸菌数のデータの相関を確認するために、両項目の調査が必要と考えていたが、調査方針については、いただいたご助言を基に再度検討を行う。

②動物

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	杉山委員	令和３年度の調査では、魚類が個体数、種数共に多く確認されているが、その要因については魚類の調査結果だけでは分析・評価できない部分がある。将来的には、水質や底質等を含めた全体的な分析・評価を行っていただきたい。	了解した。

③湿地環境の整備

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	田中委員	整備が順調に進めば、令和４年度から動植物の移植を始めるという認識で良いか。	令和４年度に一部を移植する予定である。
2	田中委員	移植地への侵入を期待する保全対象種のうちオオルリハムシやオナガカツオゾウムシ等は、食植性の昆虫類であり、各種に特定の寄主植物が存在する。これらの寄主植物が移植対象種となっていない昆虫は、寄主植物と保全対象種の両方について侵入を期待しなければならない。湿地整備後は寄主植物の生育状況もモニタリングしていただきたい。	整備計画の中で、餌資源や生息基盤となる植物についても別途移植を行う予定である。
3	田中委員	保全対象種には、同所的に生息するのが難しい種も挙げられている。これらの種はそれぞれが異なる環境で確認されているため、全ての種が移植地に生息できるかどうかも見極めていただきたい。	湿地環境については、タイプが異なる複数の湿地を同所的に整備する予定である。整備後は、順次湿地環境や動植物の定着状況をモニタリングしながら、順応的な管理を行う必要があると考えている。
4	髙橋委員	湿地環境への動植物の移植は時間をかけて行っていただきたい。 整備後にある程度環境が整ってから移植することが望ましい。場合によっては試験湛水のあたりまで移植作業は待ってもよいと考える。	―
5	髙橋委員	湖沼等であれば、ちょっとした環境の違いで異なる環境を利用する２種の生物が生息する余地がある。それを考慮して整備を進めて行けば良いのではないか。	―
6	小笠原 委員長	湿地環境の模式図は、水の流れが分かりにくいので、矢印で示していただきたい。	了解した。

④景観

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	横山委員	景観に関する予測の再実施に関して、予測の対象地点が１地点のみに限定されている。 景観に関する付加価値を作り出す観点から、他の視点場においても調査を進めていただきたい。	鳥海ダムの周辺整備については、由利本荘市と協同で計画を検討している。 展望場を設置する計画も検討していることから、いただいたご助言を踏まえ、今後、検討を進めていきたい。
2	小笠原 委員長	ダム湖が完成した際には、ダム湖の中からダム堤体を見る等、ダム湖の内側から見える景観に留意することも必要であると考えられる。	今後、様々な視点場から見える景観の状況についても検討を行っていきたい。

⑤人と自然との触れ合いの活動の場

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	横山委員	法体の滝及び法体園地キャンプ場の利用者数の内、どの程度の人が4号橋を利用すると予想されるか。	利用者のアクセス経路については今回の調査では正確に確認できていないが、百宅集落(4号橋)を通過して法体の滝及び法体園地キャンプ場へアクセスする利用者は多いものと考えられる。
2	横山委員	日常的に4号橋を利用する人はいるか。	集落の方が移転されたため、日常的に4号橋を通行する方はそれほどいないと考えている。

2.　今後の環境モニタリング調査計画に関する技術的助言

①令和4年度 モニタリング調査計画

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	沖田委員	平成 29 年度以降に未確認となっている保全対象種の植物は、確認地点が不明であり、今後の対応が難しいのであれば、保全対象種から除外することも含めて今後の取り扱い方を再検討してはどうか。	左記の種については、評価書作成段階までの調査の中で、確認地点の情報を把握しているが、耕作地の放棄等、様々な要因により未確認となっている。委員のご助言を踏まえ、今後の対応については、保全対象種から除外することも含めて検討していきたい。
2	田中委員	文献調査、資料調査は、事業の初期に実施して以来行われていないが、対象事業実施区域周辺では地元同好会誌において昆虫類に関する情報が新たに報告されている。そういった情報を収集・整理する必要はないか。	ご助言を踏まえ、新規発行文献については順次収集していきたい。
3	杉山委員	令和4年は堤体工事が本格化し、環境に与える影響が大きくなることが想定される。事業の中で環境への配慮が必要となった場合は、その都度適切な対応を行っていただきたい。	事業を進めていく上で様々な事象が発生する事が想定される。影響の程度を確認した上で、各専門の委員のご助言をいただきながら、適切な対応を講じていきたいと考えている。
4	加藤委員	工事の事前段階で除雪作業は行うか。クマタカは2月、3月に繁殖準備に入るため、事前段階で除雪を行う場合は十分に注意していただきたい。	通年行っている工事については現在も除雪を行っている。雪解け後に着手する工事は、4～5 月の除雪を予定している。いただいたご助言を基に、適切な対応を講じていく。
5	髙橋委員	サラサドウダンは見つかる可能性がないのではないかと考えている。	―